



中国の歴史(1)-1 (奴隸制時代－夏・殷)

10月①のごあいさつ
山内公認会計士事務所
2023年10月1日(日)

三皇五帝の時代は、民族共同体の良き時代であった。

首長になったからといって個人的な実利は無く、みんなに推挙された人が骨を折って働いた。「天下為公」といって、大平の世であり、天下は公のものとして、私物化はしなかった。

次に小康の世となり、禹、湯、周の文王、成王、周公が支配者となった。天下為公は天下為家となり、天下は公ではなく、家のものとなり世襲された。

禹は自分を補佐してくれた益に天下を譲ったが、禹が死んで、三年の喪があけると益は帝位を禹の子である啓に譲って箕山に隠棲した。

禹の父、鯀はただ土を盛り上げて、堤防を作る(天井川)事だけに熱中し、しかし一旦堤防が切れると災害は一層ひどいものになった。禹は堤防をつくることを反省し、黄河の水を望ましい方向へ流し、黄海へ導いた。黄河の洪水は治まって人々は、禹を王に祭った。

禹の子、啓は、武力と人間的魅力によって禹の後継者となって、夏王朝を繁栄させた。

夏王朝の啓の後の王、少康も夏王朝を繁栄させたと思われるが、夏王朝は強力な王朝ではなかったようである。殷の紂王と並んで暴君の双璧とも言うべき夏の桀王が登場し、美女の末喜を寵愛し、天下は乱れた。

前15世紀頃、殷の湯王が天下を取る。殷は文字を作り出し、甲骨に刻まれた文字によって記録を残した。これが現在の漢字の元となった。

紀元前13世紀、盤庚が王であった時代に殷の地に遷都し、殷の支配は当時の中国全土に及び天下は殷のものとなった。殷は三十代継続したが、妲己を寵愛し、淫楽と残忍を極めた紂王の代に周の武王に滅ぼされる。

殷墟から出土した獣骨等に彫りつけた文字は考古学上の貴重な資料であり、殷代の言語は後の漢語との歴史的連結性が明らかにされている。

殷は高度な文化と経済力を持つ、強国であり、その制度は奴隸制であった。

殷の滅亡の原因は紂王の暴政にもあるが、当時の経済力は殷を倒した周をはるかに上回っており、その真の原因は殷の奴隸制度の限界にあったと思われる。

夏と殷を比較して、不思議に思うのは、文字の有無の差であるが、日本の万葉仮名のように、文字のない夏の歴史やことからの口承はどうなったのだろうか。漢字が日本へ入ってきたときのようにはどうしてならなかったのだろうか。